

「令和5年度病害虫発生予報第1号」の発表について

○向こう1か月の主要な病害虫の発生予察情報（発生予報）については次のとおりです。

- ・ 野菜では、いちごのアザミウマ類の発生が、関東、東海、中国及び南九州の一部の地域で多くなると予想されています。
- ・ 果樹では、かんきつのハダニ類の発生が、南関東及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。
- ・ 茶では、カンザワハダニの発生が、南関東及び近畿の一部の地域で多くなると予想されています。

この他、トマトのコナジラミ類等、地域によっては多くなると予想されている病害虫があるので注意してください。

国の発生予察情報について

国は都道府県の協力の下、植物防疫法（昭和25年法律第151号）に基づき、有害動植物の防除を適時で経済的なものにするため、気象、農作物の生育状況、有害動植物の発生調査の結果等を分析し、有害動植物の発生予察及び防除対策に係る情報（発生予察情報）を提供しています。

本予報は、都道府県が提供する発生予察情報を取りまとめた情報になりますので、地域における情報の詳細は、都道府県病害虫防除所のホームページ等を参照してください。

国の病害虫発生予察情報及び都道府県病害虫防除所のリンク

参照URL:https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/boujyo/120104_yoho.html

気象

気象庁の向こう1か月の予報（4月6日付け）では、気温は北・東・西日本で高く、沖縄・奄美で平年並みか高いと予想されています。降水量は沖縄・奄美で平年並みか少ないと予想されています。

気象庁ホームページ

参照URL:https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/001_00.html（外部リンク）

水稻

・トビイロウンカは、その年の気象条件や飛来量によっては大きな被害を引き起こします。本虫による被害の発生が懸念される地域では、効果の高い育苗箱施用剤による防除の実施についても検討してください。

・昨年、いもち病、もみ枯細菌病、ばか苗病等の種子伝染性病害の発生が多かった地域では、特に種子消毒を的確に実施し、健全な苗の育成に努めてください。薬剤感受性の低下がみられる場合があるので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に、効果の高い薬剤を選定し種子消毒を実施してください。また、塩水選や湯温消毒といった物理的防除を実施する場合には、消毒効果を確実に得られるように、病害虫防除所が示す手順・方法に沿って適切に実施してください。

・**縞葉枯病**とは、ヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病であり、経卵伝染するため、本虫を対象とした防除を実施することが重要です。茨城県では、2月から3月にかけての調査で、ヒメトビウンカの本ウイルスの保毒虫率が高いことから、3月に茨城県から注意報が発表されています。近年、本圃で本ウイルス病の発生が高まっている地域では、ヒメトビウンカに効果の高い育苗箱施用剤による防除の実施についても検討してください。

・**スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）**は、昨年多発生となった地域では、多くの貝が越冬しているおそれがあります。今春の被害を抑えるため、移植前に取水口・排水口にネットや金網を設置するとともに、水田内の発生が多い場合には石灰窒素の散布の実施を検討してください。

なお、スクミリンゴガイは、農機具・機械に付着した泥とともに他のほ場へ拡散することがあります。発生ほ場で使用した後は泥をよく落とししてから移動させるよう心がけてください。

農林水産省では、スクミリンゴガイの被害防止対策に関するマニュアルや動画などをホームページに掲載しています。詳しくは以下のURLからご覧ください。

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の被害防止対策について

参照URL: <https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/sukumi/sukumi.html>

麦

・**赤かび病**は、本病に感染しやすい時期を捉えた防除が重要であり、下表のとおり、麦の種類ごとに防除時期が異なります。昨冬から今春にかけて気温の上昇が大きかった地域では、麦の生育が当初の予測よりも早まります。都道府県の提供する発生予察情報等を参考に、地域ごとの防除適期を確認して的確に防除を実施してください。

なお、防除適期に降雨が続く場合は、降雨の合間に防除を実施してください。

麦の種類	最初の防除を行う生育時期
小麦	開花を始めた時期から開花最盛期まで
麦の種類	最初の防除を行う生育時期
二条大麦	穂揃いの10日後
六条大麦	開花を始めた時期から開花最盛期まで

野菜・花き

野菜・花きで各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病害虫及びその地域

作物名	病害虫名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
いちご	アザミウマ類	関東、東海、中国、南九州	北陸、近畿、中国
	アブラムシ類	関東、四国	南東北、北陸、中国
	コナジラミ類	関東	南東北、東海、四国
	ハダニ類	四国	南東北、南関東、中国、北九州
	うどんこ病		北関東、中国、四国、北九州
キャベツ	菌核病		南関東、近畿、四国、南九州
きゅうり	アザミウマ類	四国、北九州	近畿
	コナジラミ類	南関東、四国	北関東、近畿
	うどんこ病	四国	南九州
	灰色かび病	南九州	北九州
	べと病	四国	南関東、近畿
たまねぎ	アザミウマ類	四国、北九州	北海道、近畿

	べと病	四国、北九州	近畿、中国
トマト	コナジラミ類	南関東、東海、四国、九州	北陸、近畿
	うどんこ病	東海、四国	南九州
	黄化葉巻病		北関東、近畿、四国
	灰色かび病	東海、四国	南関東
なす	灰色かび病	四国、北九州	
ピーマン	うどんこ病	四国、南九州	

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

いちご

・アザミウマ類の発生が、関東、東海、中国及び南九州の一部の地域で多くなると予想されており、山口県から注意報が発表されています。本虫は作物を加害するほか、多くの病原ウイルスを媒介することが知られています。発生密度が高くなってからでは防除が困難となるため、都道府県の発表する発生予察情報等を参考にほ場の観察をきめ細かく行い、発生初期に防除を実施してください。

なお、本虫は薬剤抵抗性が発達しやすいので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に同一系統薬剤の連用を避けるなど、薬剤を適切に選定してください。また、農薬散布のみならず、天敵による生物的防除等の各種防除手段を組み合わせた防除の実施についても検討してください。

トマト

・コナジラミ類の発生が、南関東、東海、四国及び九州の一部の地域で多くなると予想されています。本虫は作物を加害するほか、多くの病原ウイルスを媒介することが知られています。発生密度が高くなってからでは防除が困難となるため、都道府県の発表する発生予察情報等を参考にほ場の観察をきめ細かく行い、発生初期に防除を実施してください。

なお、本虫は薬剤抵抗性が発達しやすいので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に同一系統薬剤の連用を避けるなど、薬剤を適切に選定してください。また、農薬散布のみならず、天敵による生物的防除等の各種防除手段を組み合わせた防除の実施についても検討してください。

果樹・茶

果樹・茶で各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病虫害及びその地域

作物名	病虫害名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
かんきつ	ハダニ類	南関東、北九州	近畿、南九州
	かいよう病		南関東、四国、九州
	そうか病		東海、中国、九州
りんご	ハダニ類	北東北	北海道
茶	カンザワハダニ	南関東、近畿	東海、九州

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

かんきつ

・ハダニ類の発生が、南関東及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。また、本虫は気温が高いと増加する傾向があるため、気温が高くなると予想される地域において本虫の発生を認めた場合は、注意が必要です。園内を注意深く観察し、発生状況に応じて防除を実施してください。

なお、本虫は薬剤抵抗性が発達しやすいので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に同一系統薬剤の連用を避けるなど、薬剤を適切に選定してください。また、農薬散布のみならず、天敵による生物的防除等の各種防除手段を組み合わせた防除の実施についても検討してください。

茶

・カンザワハダニの発生が、南関東及び近畿の一部の地域で多くなると予想されています。また、本虫は気温が高いと増加する傾向があるため、気温が高くなると予想される地域において本虫の発生を認めた場合は、注意が必要です。園内を注意深く観察し、発生状況に応じて防除を実施してください。

なお、本虫は地域及び薬剤の種類により効果が異なることが知られていますので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に薬剤の選定をするとともに、収穫期を迎える園地では、薬剤の使用前日数等に留意して防除を実施するか、一番茶摘採後の防除を実施してください、

都道府県が発表した警報、注意報及び特殊報

令和5年3月8日以降、都道府県が発表している警報、注意報及び特殊報は以下のとおりです。

警報

発表はありません。

注)重要な病害虫が大発生することが予測され、かつ、早急に防除措置を講ずる必要がある場合に発表します。

注意報

発表月日	都道府県	対象作物	対象病害虫
3月22日	茨城県	水稻	イネ縞葉枯病
3月23日	佐賀県	たまねぎ	タマネギベと病
3月29日	沖縄県	さとうきび	メイチュウ類（イネヨトウ及びカンシャシクイハマキ）
3月30日	山口県	いちご	アザミウマ類
3月31日	岩手県	りんご	リンゴ黒星病
3月31日	岩手県	りんご	ハダニ類
3月31日	愛媛県	たまねぎ	タマネギベと病

注)警報を発表するほどではありませんが、重要な病害虫が多発することが予測され、かつ、早めに防除措置を講じる必要がある場合に発表します。

特殊報

発表月日	都道府県	対象作物	対象病害虫
3月10日	群馬県	ブルーベリー	ブルーベリー類うどんこ病
3月14日	長野県	くるみ	クルミ褐斑病（仮称）
3月15日	北海道	さつまいも	タバココナジラミ バイオタイプQ

注)各都道府県において、新たな病害虫を発見した場合及び重要な病害虫の発生消長に特異な現象が認められた場合に発表します。

病害虫の生態等の生物学的情報や防除に関する情報の詳細については、各都道府県の病害虫防除所のホームページ等を参照してください。

見慣れない病害虫被害が発生していた場合の対応

植物防疫法の改正により、新たに重要病害虫発生時の通報に関する規定が追加されました。我が国未発生又は我が国の一部のみが発生している重要病害虫が、万が一国内の未発生地域に侵入

した場合、国内の農業生産に重大な損害を与えたり、農産物の輸出を阻害するおそれがあります。こういった重要病害虫の侵入に伴う国内の農業生産や輸出への影響を防止するためには、国内の未発生地域への重要病害虫の侵入を早期に発見し、速やかに的確な防除を実施することが重要です。

農作物に見慣れない病害虫被害が発生していた場合には、最寄りの植物防疫所又は都道府県の病害虫防除所等にお知らせください。

植物防疫所の連絡先

参照URL：<https://www.maff.go.jp/pps/j/introduction/domestic/dsinnyuu/221121.html>

都道府県の病害虫防除所の連絡先

参照URL：https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/boujyo/120105_boujoshou.html

用語解説

(地域)

北海道：北海道

東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

北東北：青森県、岩手県、秋田県

南東北：宮城県、山形県、福島県

関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

北関東：茨城県、栃木県、群馬県

南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

甲信：山梨県、長野県

北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県

東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県

北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県

南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県

沖縄：沖縄県

(発生量(程度))

多い(高い)：やや多いの外側10%の度数の入る幅

やや多い(やや高い)：平年並の外側20%の度数の入る幅

平年並：平年値を中心として40%の度数の入る幅

やや少ない(やや低い)：平年並の外側20%の度数の入る幅

少ない(低い)：やや少ないの外側10%の度数の入る幅

(平年値は過去10年間の平均)

(参考) 今後の発表予定日

第2号：5月17日(水曜日)

第3号：6月14日(水曜日)

第4号：7月12日(水曜日)

第5号：7月26日(水曜日)

第6号：8月9日(水曜日)

第7号：9月13日(水曜日)

第8号：10月11日(水曜日)

第9号：11月15日(水曜日)

第10号：令和6年3月13日(水曜日)

【お問合せ先】

消費・安全局植物防疫課

担当者：岡田、城野、吉田、河合

代表：03-3502-8111（内線4562）

ダイヤルイン：03-3502-3382